

きぬがさ

東近江市立能登川西小学校
学校だより No.15
平成30年(2018年)1月9日

たくさんの成長を3学期につなげて ～そして「百人一首」のすすめ～

武村 節子

学校では、まとめの3学期を迎えました。6年生にとっては、能登川西小学校での生活は、後50日となりました。1年生から5年生の皆さんにとっても、現在の学年で過ごせるのは52日です。

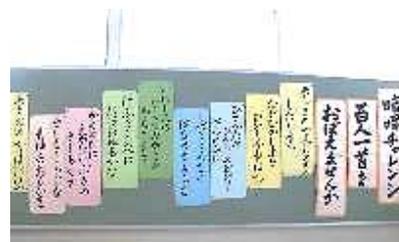
2学期は、福祉委員会でかがやきの木の「かがやき表彰」や毎朝のあいさつで児童会本部の「きょうのキラリンさん表彰」、行事で「はつらつマラソン」完走証、校長室で「暗唱チャレンジ」合格証、とすばらしい学びを進めてきました。いよいよ集大成の時期です。どうかこの3学期が、一人一人にとって充実した日々となり、楽しい学校生活が送れますようにと、心を込めて日々の教育活動に努めてまいりたいと思っております。

さて、この冬休みの宿題には、各学年の学習内容の復習と共に、読書や百人一首の暗唱などが出されたと思います。能登川西小学校では、詩や俳句などの「暗唱チャレンジ」に取り組んでいます。1学期も2学期も多くの児童が合格をしてきました。小学校の6年間は、スポンジのように吸収する脳で、多くのことを覚えます。大人になってからわかるのですが、この時期を逃さず覚えたことは、一生忘れません。

健やかな体づくりとしての「はつらつマラソン」や「わくわくチャレンジ」、「キラリン歯みがき」などに、能登川西小学校は熱心に取り組んでいます。そして、人間のからだは運動機能と認知機能が切っても切れない関係にあり、その結果、運動した後は精神的にも気分の良い状態が作り出されることが、最近の脳科学で次々解明されつつあります。からだを動かした後、気持ちやからだをクールダウンさせて、読んだり書いたり計算したりなどの活動で、脳はさらに効率よく活性化されるというのです。

お正月に「百人一首」を覚えることは、古語がわからない小学生にとって一見無意味に思えるかもしれませんが、なまった脳を活性化させるためにも、声を出して暗唱するにはもってこいの題材ではないでしょうか。また、最近の子どもたちに苦手な「文章を書く力をつける」ためには、結局のところ、多くの詩や文章を暗唱する方法が最も良いとも言われています。さらに、生活に必要な言葉の語彙を増やし、イメージを膨らませ、文章の構成力を伸ばし、日本語の美しい言葉の流れやびびきといったものをも習得することができます。

昔から言われているように「よく遊びよく学び」、そして「心すこやかに」今年をスタートさせましょう。そして3月には、6年生の皆さんやお世話になった皆さんに、そして西小学校の校舎にと、1年間の感謝の気持ちが「ありがとう」の言葉となって表れるような、そんなすてきな3学期をみんなで創



【暗唱チャレンジの掲示】



【合格者の名前のお知らせ】

っていきましょう。保護者の皆さん、今年もどうぞよろしくお願ひします。